



2019年5月23日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川淳一
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 法務・総務部マネージャー 上原佳浩
(TEL. 03 - 3257 - 0371)


2019年3月期 決算・中期経営計画 説明会資料

当社では、本日5月23日、機関投資家・証券アナリスト向けに2019年3月期 決算・中期経営計画説明会を開催いたします。

2019年3月期 決算の概要、今後の業績見通しと中期経営計画について説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

2019年3月期 決算・中期経営計画説明会

 関東電化工業株式会社
2019年5月23日

説明内容

1. 2019年3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向
3. 第11次中期経営計画の概要

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

関東電化グループ（連結子会社）

(単位：百万円)

	資本金	出資 比率%	2019/3期 売上高	対前期比	主要な事業内容
関電興産（株）	10	100.0	6,832	435	化学工業薬品の販売および容器整備、 保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	4,734	△200	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下并柄工業（株）	27	99.3	832	△74	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA（株）	3億ウォン	90.0	12,402	1,296	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限 公司	7百万NTドル	100.0	5,473	288	フッ素系製品の販売
関東電化ファインプロダク ツ韓国（株）	215億ウォン	100.0	—	—	フッ素系製品の製造・販売
	合計		30,276	1,744	

関東電化工業株式会社

4

連結決算のポイント

(単位：億円)

	2018/3	2019/3	差額
売上高	513	552	38
営業利益	90	94	4
純利益※	61	65	4

※親会社株主に帰属する当期純利益

【売上高】 (+38億円)

- ・基礎化学品事業は、価格修正効果により増収 (+7億円)
- ・精密化学品事業は、販売数量の増加により増収 (+34億円)
- ・鉄系事業 (△0.2億円)、商事事業 (+0.2億円)、設備事業 (△3.7億円)

【営業利益】 (+4億円)

- 基礎化学品事業 (+3.1億円)、精密化学品事業 (△1.0億円)
- 鉄系事業 (△0.8億円)、商事事業 (+0.3億円)、設備事業 (+2.3億円)

基礎化学品事業部門

(単位：億円)

	2018/3	2019/3	差額
売上高	60	68	7
営業利益	△0	2	3

【売上高】

- ・か性ソーダ・・・販売数量は減少したものの価格修正効果により増収。
- ・塩酸・・・販売数量の減少により減収。
- ・トリクロールエチレン・・・販売数量の増加により増収。
- ・パークロールエチレン・・・前期並み。

【営業利益】

- ・原材料価格は上昇したものの、価格修正効果により増益。

精密化学品事業部門

(単位：億円)

	2018/3	2019/3	差額
売上高	379	414	34
営業利益	84	83	△1

【売上高】

- ・三フッ化窒素・・・販売数量の減少により減収。
- ・六フッ化タングステン・・・販売数量の増加により増収。
- ・六フッ化リン酸リチウム・・・販売数量の増加により増収。

【営業利益】

- ・フッ素系特殊ガスの増収効果はあるものの、原材料価格・固定費の増加等により減益。

鉄系・商事・設備事業部門

(単位：億円)

	2018/3	2019/3	差額
売上高	73	69	△3
営業利益	6	8	1

【鉄系事業】

鉄酸化物の販売減少により減収。

【商事事業】

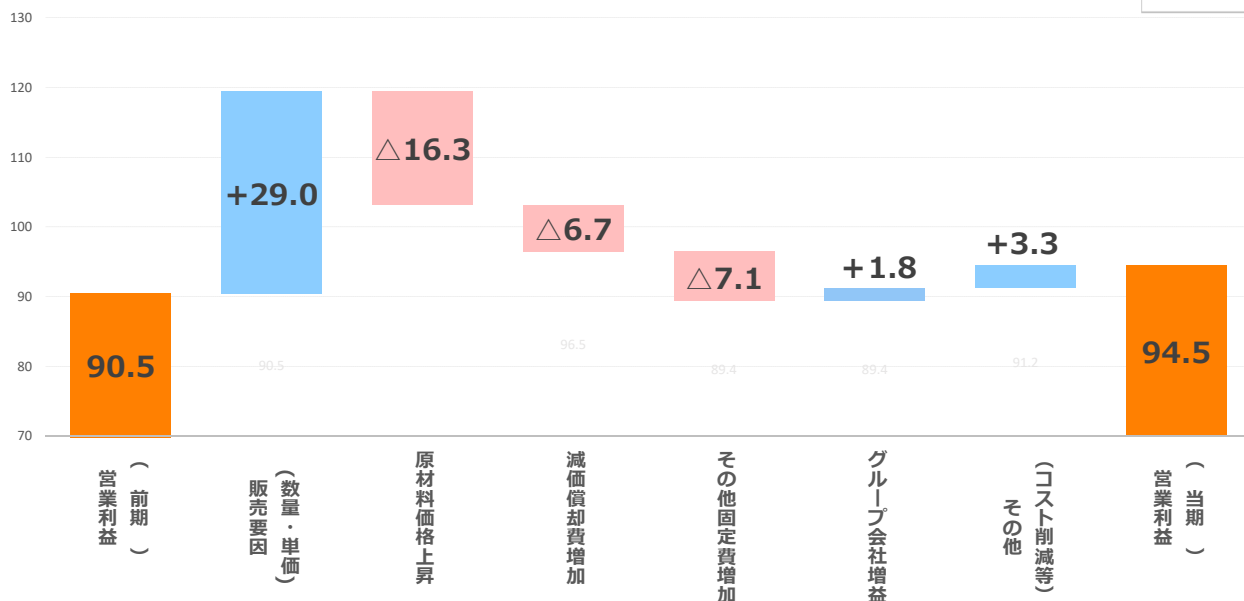
連結子会社である関電興産の化学工業薬品の販売増加により増収。

【設備事業】

連結子会社である上備製作所の請負工事減少により減収。

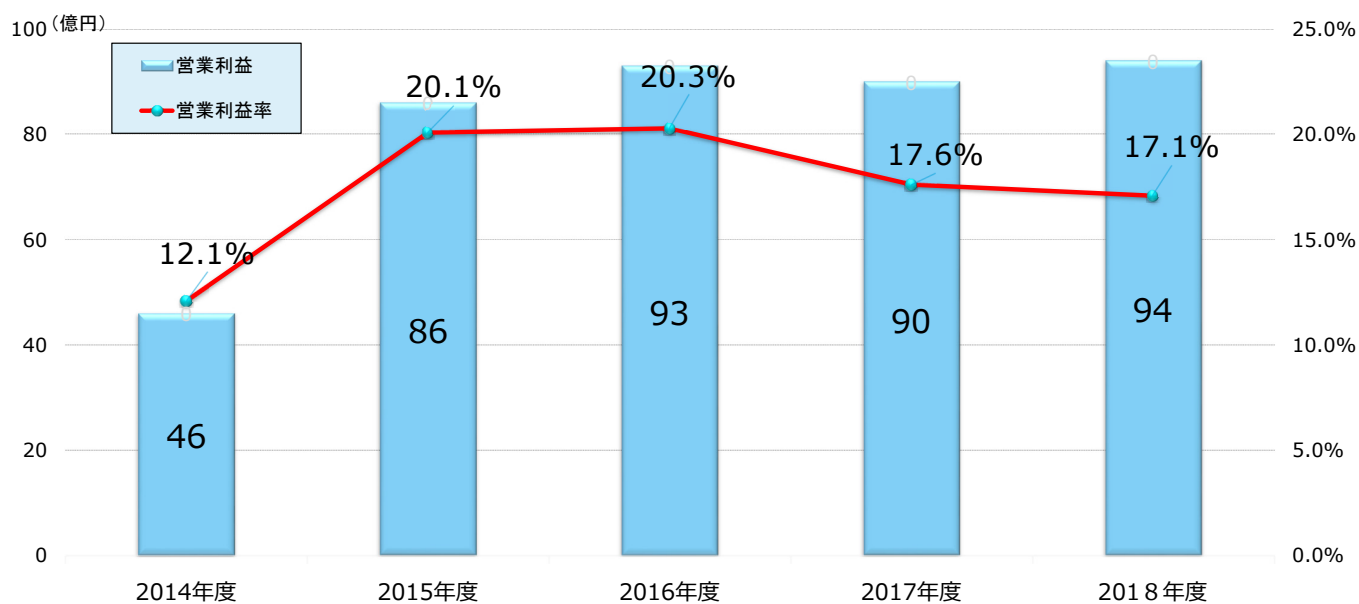
連結営業利益差異分析(2018/3 対 2019/3)

(単位：億円)



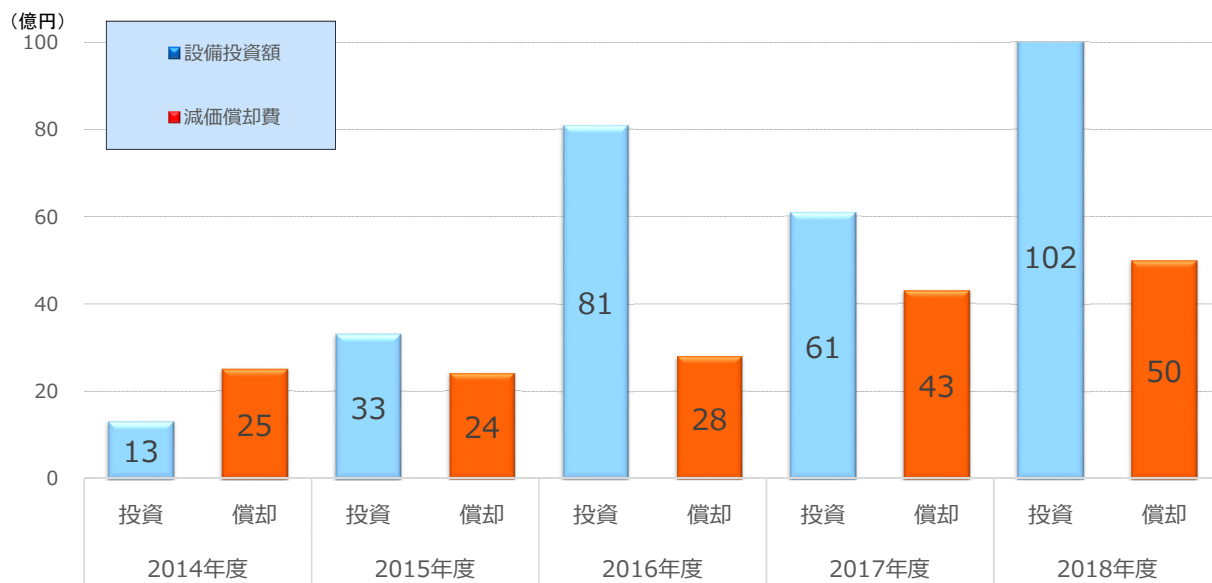
関東電化工業株式会社

営業利益と営業利益率の推移 (連結)

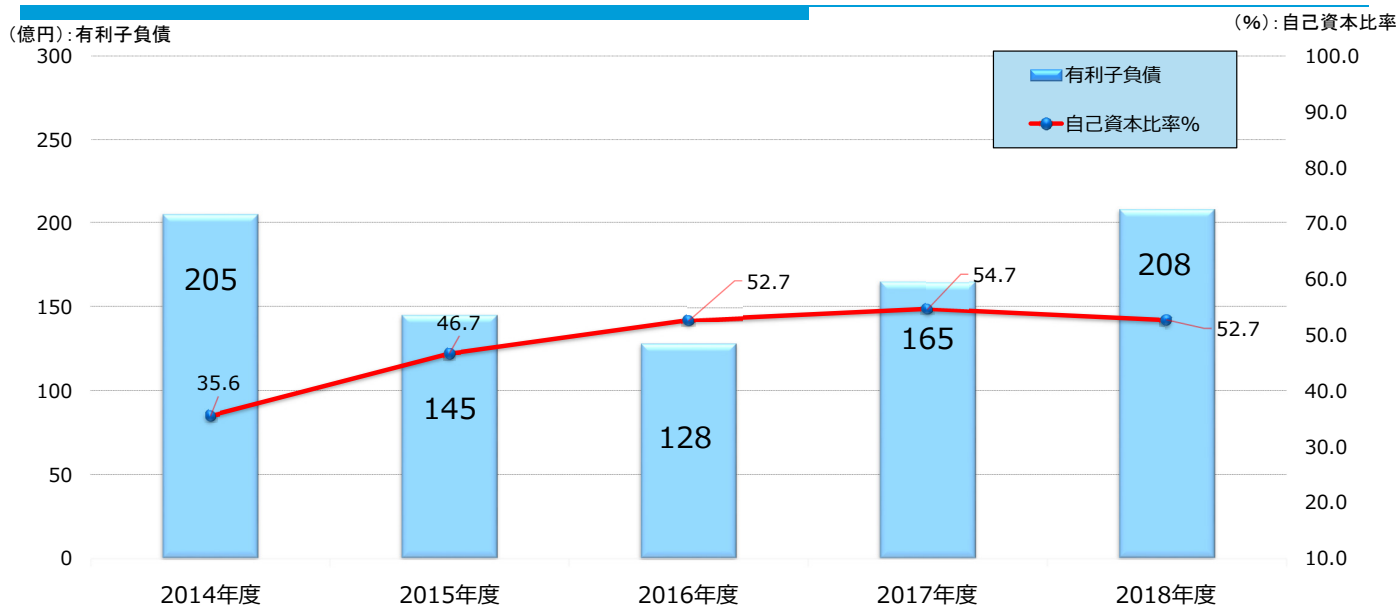


関東電化工業株式会社

設備投資・減価償却費の推移（連結）



有利子負債・自己資本比率の推移（連結）



説明内容

1. 2019年3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向
3. 第11次中期経営計画の概要

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

セグメント別業績予想（連結）

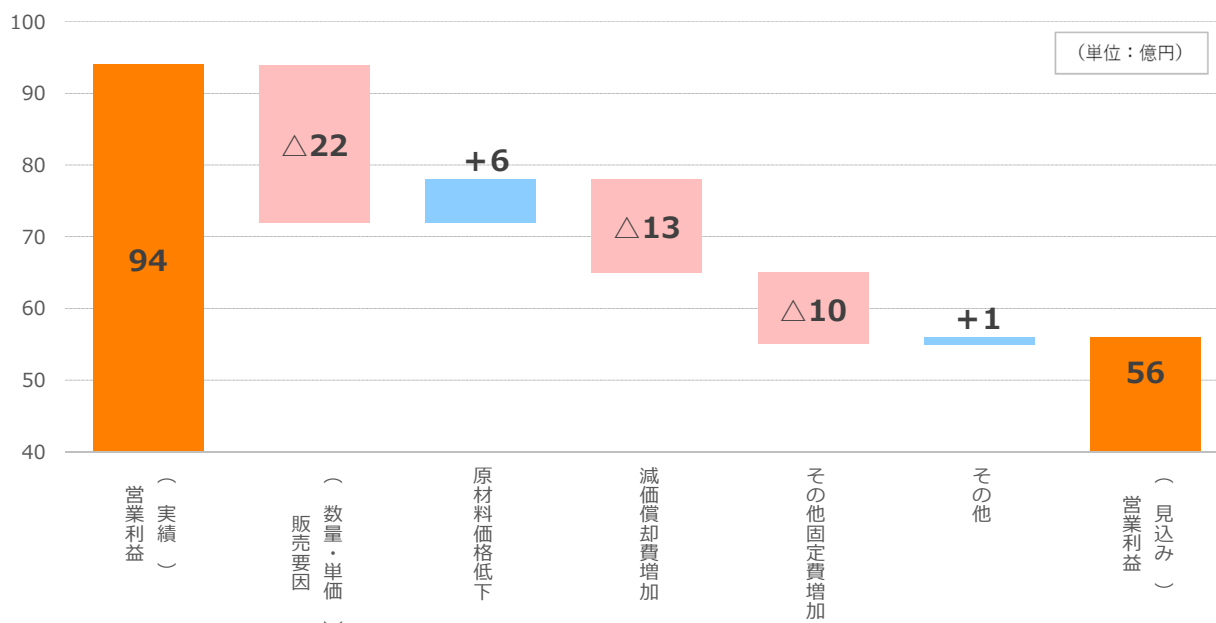
(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2019/3	2020/3	差額	2019/3	2020/3	差額
基礎	68	65	△3	2	2	△0
精密	414	409	△5	83	48	△35
その他※	69	69	△0	8	6	△2
合計	552	543	△9	94	56	△38
設備投資費	102	121	19			
減価償却費	50	64	13			
研究開発費	12	13	1			

【業績予想前提】
為替レート：110円/\$

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

連結営業利益差異分析(2019年3月期 対 2020年3月期)



関東電化工業株式会社

15

セグメント別業績予想 (連結) 上期下期比較

(単位：億円)

	2020/3 売上高			2020/3 営業利益		
	上期見込	下期見込	差額	上期見込	下期見込	差額
基礎	31	34	3	0	2	2
精密	192	217	25	19	29	10
その他※	35	34	Δ1	3	3	0
合計	258	285	27	22	34	12

設備投資費	63	58	Δ4
減価償却費	26	37	11
研究開発費	7	6	Δ0

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

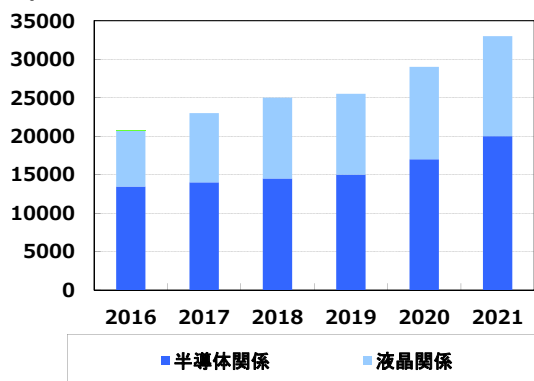
関東電化工業株式会社

16

–主な製品の見通し– 三フッ化窒素 (NF₃)

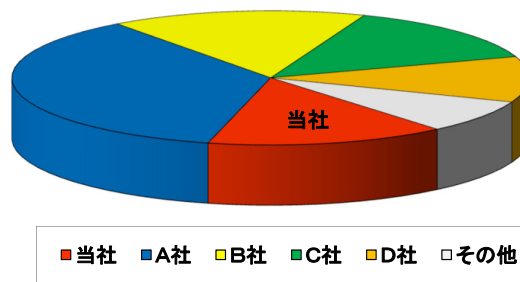
- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス
- 製造能力 3,700t/年

【需要動向（2019年度以降は予想）】



【現在のシェア予想】

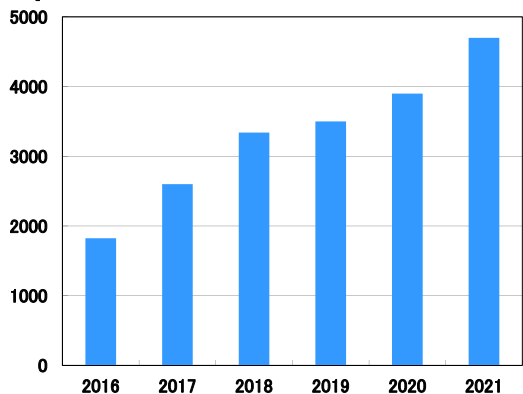
当社シェアは2割弱



–主な製品の見通し– 六フッ化タンゲステン(WF₆)

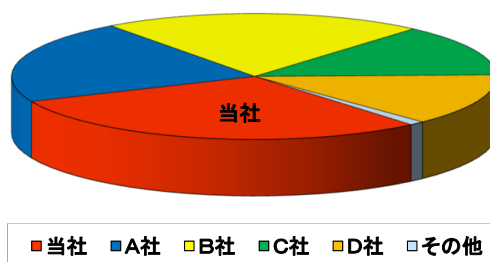
- 半導体用配線材料ガス。
- 需要の拡大に対応するため増設中。
- 生産能力720t/年（2016.11）⇒ 910t/年（2018.08）⇒ 1,400t/年（2019.10予定）

【需要動向（2019年度以降は予想）】



【現在のシェア予想】

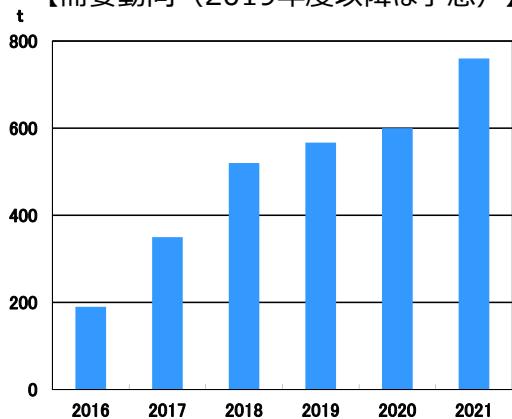
当社シェアは約3割



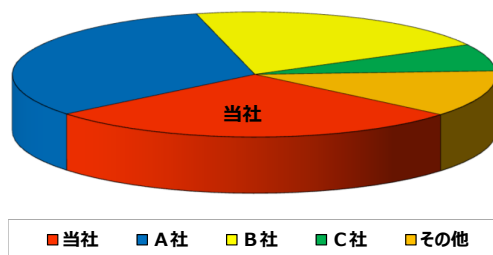
– 主な製品の見通し – ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C₄F₆)

- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 125t/年 ⇒ 160t/年 (2018.12) ⇒ 260t/年 (2019.12予定)

【需要動向 (2019年度以降は予想)】



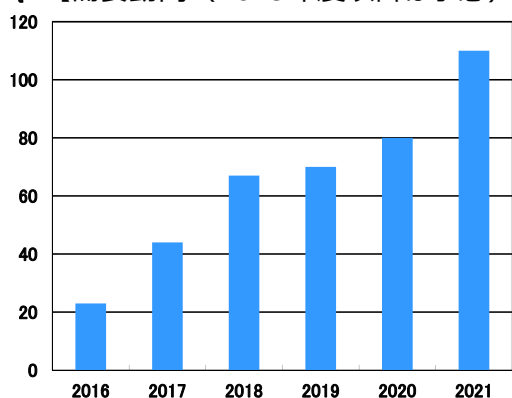
【現在のシェア予想】
当社シェアは約 3 割



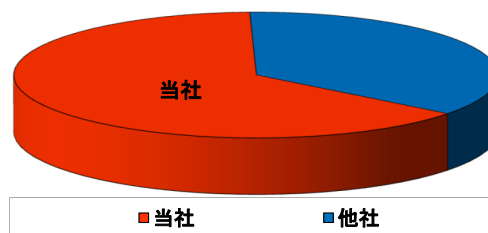
– 主な製品の見通し – 硫化カルボニル(COS)

- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 40t/年 ⇒ 80t/年 (現在)

【需要動向 (2019年度以降は予想)】



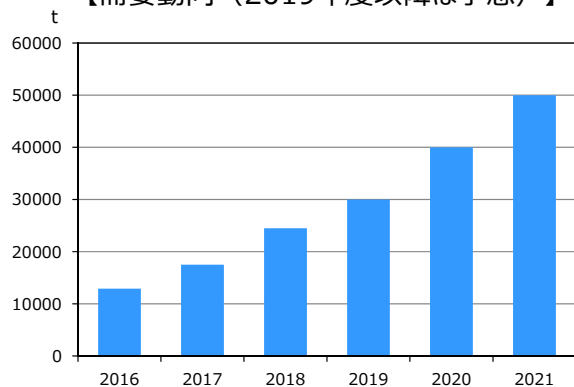
【現在のシェア予想】
当社シェアは 6 割以上



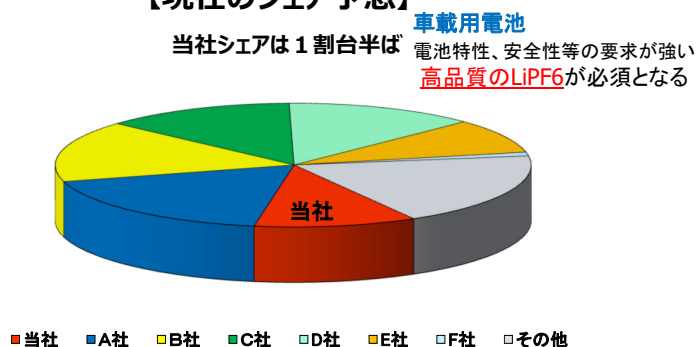
－主な製品の見通し－ 六フッ化リン酸リチウム (LiPF₆)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質
- E V等の車載向け需要が本格化
- 現在の製造能力は5,400 t/年

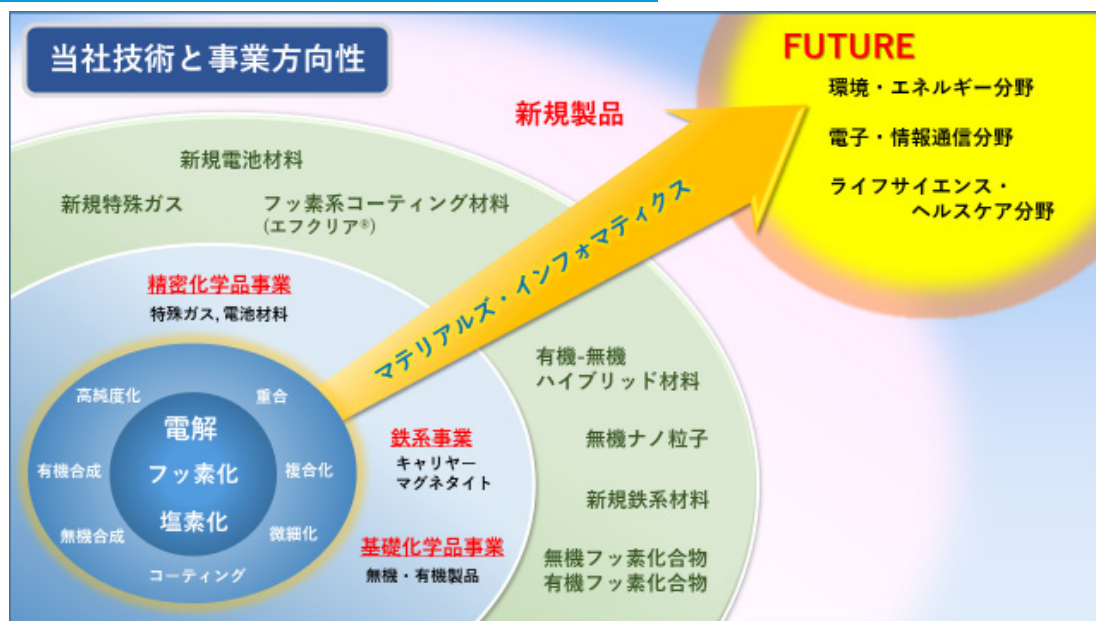
【需要動向（2019年度以降は予想）】



【現在のシェア予想】



創造的開発型企业へ



説明内容

1. 2019年3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向
3. 第11次中期経営計画の概要

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

第11次中期経営計画

“Journey to 1000”

～精密化学品事業の拡大推進と競争力を育成するとともに
新事業創出による成長基盤を強化する～

第10次中期経営計画の実績

(単位：億円)

	2016/3	2019/3	当初目標
売上高（連結）	430	552	550
営業利益（連結）	86	94	100
自己資本比率%（単体）	47.7%	55.4%	50%以上

- 数値目標→営業利益以外は達成。
- 『既存事業の収益力強化』→生産性向上、他社に先行した増設を実施することで高収益維持。
- 『経営の安定化』→自己資本比率の改善、韓国生産拠点設立によるBCP強化と為替リスク低減。
- 『新規事業の早期創出』→研究拠点の再構築と人材育成で課題を残す。

第11次中期経営計画に向けて

更なる成長と社会の変化に対応するために…

- ① 中長期的な企業価値向上と持続的成長の推進
→成長基盤強化
- ② デジタル化の急速な進展への対応
→IoT、AI活用
- ③ 人材育成と働き方改革の推進
→働きがい

10年後のありたい姿

安定した経営基盤のもと、安全で働きがいを実感できる環境を提供し、独自性・優位性ある製品で世界最先端の技術を支え社会に貢献する「創造的開発型企業」へ成長する

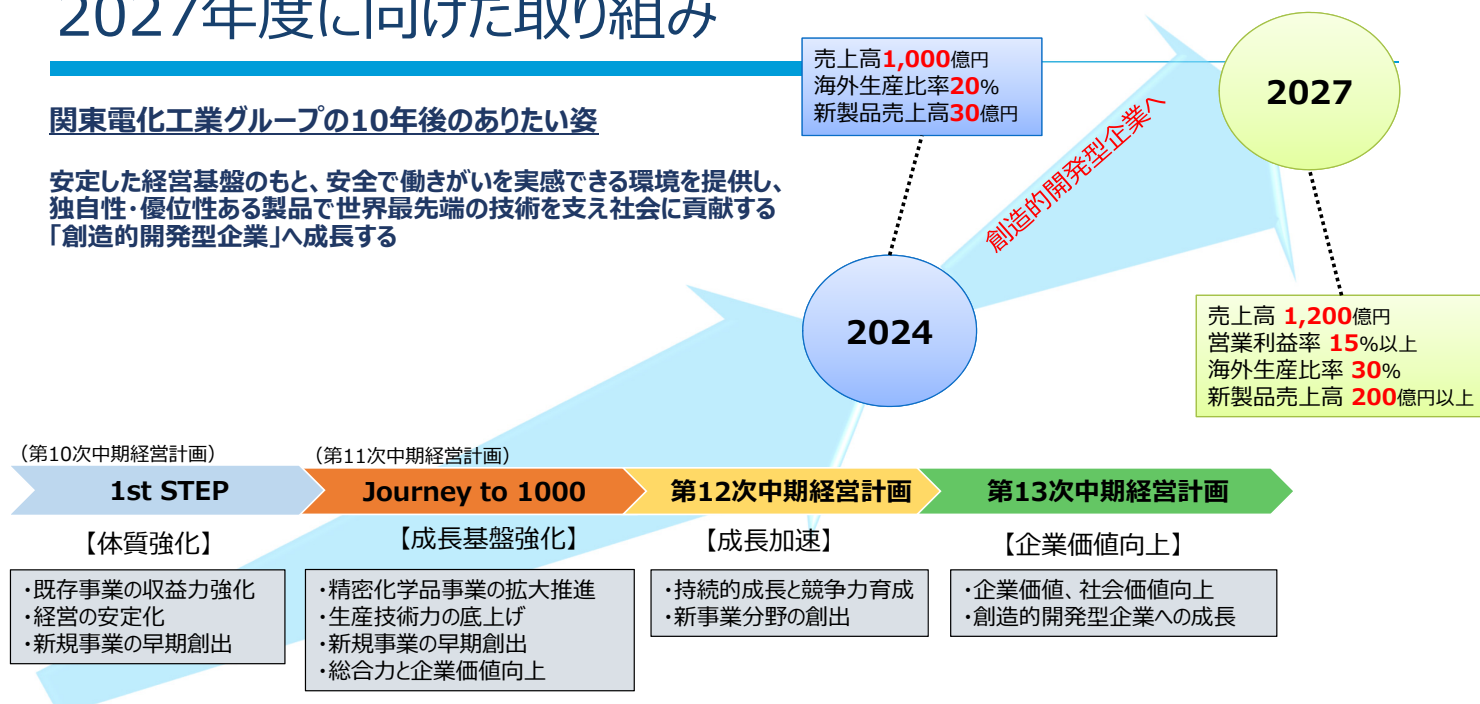
「2024年度 連結売上高 **1000億円**達成」と10年後を見据えた、直近3ヶ年（2019-2021年度）の重点戦略⇒**第11次中期経営計画**

“Journey to 1000”
～精密化学品事業の拡大推進と競争力を育成するとともに
新事業創出による成長基盤を強化する～

2027年度に向けた取り組み

関東電化工業グループの10年後のありたい姿

安定した経営基盤のもと、安全で働きがいを実感できる環境を提供し、独自性・優位性ある製品で世界最先端の技術を支え社会に貢献する「創造的開発型企業」へ成長する



重点戦略

精密化学品事業の拡大推進

- ✓ 精密化学品新製品の早期市場投入
- ✓ 海外生産拠点の安定稼働
- ✓ 顧客密着と顧客提案力の強化

生産技術力の底上げ

- ✓ 基盤技術（電解・フッ素化・分析）の向上
- ✓ 品質評価能力の向上
- ✓ IoT, AIを活用した省力化の推進

新規事業の早期創出

- ✓ 当社独自の優位性ある技術育成
- ✓ マーケットイン型の開発強化
- ✓ 事業化ストーリーと戦略化推進
- ✓ 新規事業の早期提案

グループ総合力強化

- ✓ 基本3課題（安全・利益・改善）の定着化
- ✓ 会社とともに成長する人材育成
- ✓ 資本政策と株主還元強化

ESGシフトと企業価値向上

- ✓ 環境配慮型リサイクル技術育成
- ✓ 社会価値と経済価値を高めるガバナンス
- ✓ 多様性と働きがいのある職場環境構築
- ✓ ROE、TSR、資本コストを意識した経営

経営指標

(単位：億円)

経営指標	2022/3 (最終年度)	2019/3
売上高 (連結)	700	552
営業利益 (連結)	120	94
自己資本比率 (連結)	50%以上	54.7
ROE (連結)	15%以上	16.1%
配当性向 (単体)	20%以上※	12.0%

※3年間で段階的に引き上げた最終年度の目標

経営指標

(単位：億円)

	2019/3 実績	第11次中期経営計画		
		2020/3	2021/3	2022/3
売上高	552	543	630	700
営業利益	94	56	100	120
設備投資・投融資	102	400※		

※設備投資・投融資400億円・・・3年間の合計額

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。